

## 本丸御殿：歴史と審美的趣味

本丸御殿は、徳川将軍の城と京都の邸宅であった敷地内に現在所在する、天皇と皇族の象徴です。二の丸御殿と併せて訪れると、皇室と武家階級の対照的な審美的文化を洞察することができます。

### 元の本丸御殿

二条城は 1603 年に、徳川幕府の初代将軍である徳川家康（1543～1616）によって建設されました。将軍が日本の政治的支配者であったにもかかわらず、天皇は依然として公式な国家元首でした。1626 年、後水尾天皇（1596～1680）が二条城を皇族として訪問しました。この機会に城の敷地が拡張され、最初の本丸御殿が建設されました。

### 現在の本丸御殿

後水尾天皇の来訪のために建てられた宮殿は、1788 年の京都大火で焼失しました。一時的な宮殿が建てられ、数十年間使用された後、現在の本丸御殿の建物が敷地内に設置されました。4 つの建物は元々、皇族の桂宮家の邸宅である桂宮御殿の一部でした。宮殿の建物は、1894 年に明治天皇（1852～1912）の命により現在の場所に移されました。1867 年に徳川将軍が職を辞し、政治的権力は天皇に返還されました。二条城の管理は

皇室に移管され、1884年に二条離宮となりました。

### 本丸御殿と二の丸御殿の対照的な審美性

二条城の2つの御殿のデザインには、顕著な違いがあります。本丸御殿の屋根はより丸みを帯びた形状で、破風は柔らかい曲線をなし、装飾も控えめです。建物は広々としていますが、豪華すぎるものではありません。対照的に、二の丸御殿は精巧な彫刻、豊富な金箔、急勾配の屋根の線など、豪華さと権威を醸し出しています。

両御殿とも襖には絵が描かれていますが、モチーフや表現方法が異なります。例えば、貴族的な本丸御殿の一場面では、平和と長寿の象徴である鶴が湖畔の松の垂れ下がった枝の下で遊ぶ雛を見守っています。一方、武家階級の二の丸御殿では、強さと権威の象徴である鷹が松の木の高いところにとまり、頑丈な枝から風景を見渡している様子が描かれています。

### 本丸御殿の歴史

明治天皇は、1895年に二条離宮を公式に訪問した際、現在の本丸御殿を使用した最初の皇族でした。滞在中、天皇は宮殿の主要な部屋に名前を付け、2階の皇室の居室、御座所に一幅の書を掛けさせました。その書には、幸福を分かち合うという考えを表わす「呈寿」の文字が記されています。

その後の数十年間、皇太子嘉仁（後の大正天皇、1879～1926）とその息子である皇太子裕仁（後の昭和天皇、1901～1989）の双方が、この宮殿で時を過ごしました。嘉仁は1915年に即位し、その即位宴が二条離宮で開かれました。

時代に合わせて、宮殿にはいくつかの改修が施されました。電灯が設置され、シャンデリアが吊るされ、一部の畳やフロアパネルの上にカーペットが敷かれました。古い照明器具の多くは今でも使用されています。